

## 第6章 基本構想・基本計画5年間の実績

座光寺地域基本構想・基本計画は平成19年にスタートし、23年で5年間を経過しました。この間、毎年度の予算編成や決算時において基本計画の進捗状況の確認体制を敷いて、麻績の里座光寺の構想実現に向けて精力的に取り組んできました。

今回、中間見直しにあたり5年間の事業の実施度を次の評価基準に従い見直し、検討委員がそれぞれの担当部会ごとに評価を実施しました。

この評価を通して前半期の取組実績を総括し、後半期における課題の洗い出しを行いました。

### 評価基準

ランク	実施状況	点数	状況の内訳
A	実施できた	100～90以上	実施できた。更なる充実
B	概ね実施できた	90未満～70以上	ある程度実施できたが更なる努力
C	やや遅れている	70未満～50以上	まだ実施すべき課題がある
D	実施が遅れている	50未満～20以上	少し着手したが大半はこれから
E	実施できていない	20未満～0	未着手又は殆ど着手してない状態

### 1 総体評価（69.0点）……『概ね実施できたが、取組の遅れもある』

「6つの里づくり」のなかで、「概ね実施できた」とBランクの高い評価がされたのが4分野あり、「自然・歴史・文化の誇れる里づくり」も68.8点と、ほぼBランクに近い評価がされたことは、基本構想・基本計画に描いた事業が概ね着手され、中には事業実施が図られたものがあるなど、構想の実現に向けて一定の成果を得たものと認められます。

しかし、「産業の里づくり」は、経済活動が伴うだけに一自治組織の能力を超える部分があり難しい取り組みがあるものの、地域の活力を担う大事な分野であるだけに後半期の取組が大きな課題です。

総じて「概ね実施できた」と総括することができますが、後半期に残された課題はたくさんあり、引き続き「麻績の里 座光寺」の構想実現に向けて精力的に取り組む必要があります。

### 2 6つの里づくり

#### (1) 心通い合うふれあいの里づくり（72.0点）……『概ね実施できた』

参加・協働の自立の輪づくりでは、スポーツ大会、地区行事への誘い合い、河川清掃や道路清掃などの地域ぐるみの取組は概ね実施できています。

地域への帰属意識と郷土愛を高める面では、念願であった「夏祭り」が実現出来たことは基本構想の象徴的な成果として大きく評価できます。一方、オアシス運動、アセカキ運動が掛け声に終わってしまい思いやりの心を育てるまでには至りませんでした。

交流の場づくりでは、都市との交流が積極的に取り組まれ、地域に新鮮な風を巻き起こしていることが評価されました。

男女共同参画の取組はでは、先進地の視察や研修会を実施しているものの、その割に成果が上がっていません。

- (2) 地域を愛し自ら行動する人が育つ里づくり (75.0点) …………… 『概ね実施できた』  
おしなべて施策の8割方が「概ね実施できた」と高い評価ができました。これは、座光寺の特徴的な活動である特別委員会や、公民館、地区が継続的に活動した結果が形となったものと考えられます。  
生涯学習の推進で、冊子「私たちのふるさと座光寺」は優しい文体でまとめられ、「麻績の里」を知る書物の出版として尊い実績を残しました。  
学校と地域社会との連携では、各種行事への一定の参加は見られるものの、学校・地域・PTAの連携が十分でない現状が浮き彫りとなり課題を残しました。
- (3) 自然・歴史・文化の誇れる里づくり (68.8点) …………… 『課題もあるものの概ね実施できた』  
歴史・文化の保存・継承では、特別委員会「歴史に学び地域をたずねる会」の活動により、組織的体系的な活動展開が促されました。特に補助事業の導入により積極的な取組がなされ、多くの施策が実施されています。  
交流と学習を通じた新たな文化創造では、獅子舞・竹の子会の活躍はあるものの、今一步の取組が必要です。  
みんなに親しまれる里山では、一部団体のみの取組となっており、地域全体に浸透していないことが課題です。
- (4) 快適で安心・安全なやすらぎの里づくり (72.3点) …………… 『概ね実施できた』  
全施策25項目中18項目で概ね実施できたと高い評価が得られました。  
温かい福祉の里づくりでは、子ども見守り隊や子育て支援ボランティアの活動は評価できます。一方、地区集会所や道路などの公共施設のバリアフリー化の施設整備では遅れがあり、Cランクの低い評価でした。  
長生きできる健康づくりでは、公民館のスポーツ活動などが活発で高い評価でした。  
社会のルールを守りますでは、あいさつ・声かけ運動は地域に浸透していないうえ、公助の精神が乏しく、ふれあいの里づくりへの思いやりの心が育っていないと厳しい評価で、今後の大きな課題です。
- (5) 地域の特性が光る活力ある産業の里づくり (49.5点) …………… 『やや遅れている』  
特色ある農業を継承し新たな魅力ある農業への取組は、農業体験の受け入れや、新しい化リソングの導入など評価できるものの、農業の抱えている課題の大きさから多くの施策が取り組めていません。  
若者の定着につながる商工業の活性化では、Eランクの最低評価で、リニア時代を見据えた抜本的な取組が必要です。  
地域の魅力を活かす観光の里づくりでは、舞台桜が観光ポイントとして大きく育ちました。しかし、元善光寺周辺の観光開発については、地域を挙げての観光展開が描けず具体的な行動に至っていません。
- (6) 麻績の里づくりを支える基盤整備 (76.4点) …… 『概ね実施できた』  
基幹道路・生活道路の整備は、稲荷坂線の完成のみでDランク評価であり、引き続き重点整備路線の早急な整備が大きな課題です。

生活環境整備では上下水道の一定の整備が進み評価できる状態です。

調和ある土地利用では、「土地利用計画」が策定され70件程の届出行為があり、大型アパート等の建築抑制や看板規制などが遵守され地域の景観維持に寄与しています。

災害に備える施設整備では、地域防災計画に基づき逐次整備を進めています。

節		項		事業	評価	点数	平均	
1	心通い合うふれあいの里づくり	1	参画・協働の自立の輪を広げます	1	b	75	76.3	72.0
				2	a	90		
				3	c	60		
				4	b	80		
		2	地域への帰属意識と郷土愛を高めます	1	c	60	68.0	
				2	d	20		
				3	a	100		
				4	b	80		
				5	b	80		
		3	心を繋ぐ交流の場を増やします	1	b	80	71.7	
				2	d	45		
				3	a	90		
2	地域を愛し自ら行動する人が育つ里づくり	1	地域に学び、体験を通して地域を愛する心を育てます	1	b	80	83.1	75.0
				2	b	80		
				3	a	100		
				4	b	80		
				5	b	85		
				6	b	85		
				7	c	70		
				8	b	85		
		2	スポーツを振興します	1	b	85	79.0	
				2	b	80		
				3	b	80		
				4	b	80		
				5	c	70		
		3	生涯学習を推進します	1	b	75	80.0	
				2	b	80		
				3	b	85		
				4	b	80		
				5	b	80		
		4	子育て支援を充実します	1	b	80	58.6	
				2	b	80		
				3	b	75		
				4	e	0		
				5	b	80		
				6	e	20		
				7	b	75		

		5	学校と地域社会の連携を図ります	1	c	70	74.2		
				2	b	75			
				3	b	80			
				4	b	85			
				5	b	75			
				6	c	60			
3	自然・歴史・文化の誇れる里づくり	1	山や川の自然を守り、活かします	1	c	50	63.8	68.8	
				2	b	70			
				3	b	80			
				4	a	90			
				5	c	50			
				6	a	90			
				6	d	20			
		7	c	60					
		2	歴史・文化を保存し、継承します	1	b	80	72.5		
				2	b	80			
				3	b	80			
				3	d	30			
				4	b	80			
				5	b	90			
				6	b	70			
		7	b	70					
		3	交流と学習を通して、新たな文化を創造します	1	a	90	70.0		
				2	c	50			
				3	b	80			
				4	d	60			
		4	快適で安心・安全なやすらぎの里づくり	1	温かい福祉の里をつくります	1	b		80
2	b					85			
3	c					50			
4	e					0			
5	c					50			
6	b					80			
7	e					0			
2	長生きできる健康づくりに努めます			1	a	95	83.8		
				2	b	80			
				3	a	90			
				4					
3	社会のルールを守りあいます			1	c	50	70.0		
				2	c	60			
				3	b	80			
				4	b	70			
				5	a	90			

		4	環境衛生に心を配りあいます	1	a	90	77.0			
				2	b	80				
				3	c	50				
				4	b	85				
				5	b	80				
		5	災害に備える里づくりに努めます	1	b	75	81.3			
				2	b	80				
				3	a	90				
				4	b	80				
				5	b	80				
5	地域の特性が 光る活力ある 産業の里づく り	1	特色ある農業を継承し新たな魅 力ある農業を推進します	1	d	50	36.3	49.5		
				2	e	0				
				3	e	0				
				4	a	100				
				5	b	80				
				6	e	0				
				7	d	30				
				8	d	30				
		2	若者の定着につながる商工業を 活性化します	1	c	50	17.5			
				2	e	0				
				3	c	20				
				4	e	0				
		3	魅力ある森林づくりに努めます	1	a	90	90.0			
		4	地域の魅力を活かした観光の里を 目指します	1	e	0	54.0			
2	b			80						
3	b			80						
4	c			50						
5	c			60						
6	麻績の里づく りを支える基 盤整備	1	基幹道路・生活道路の整備を促 進します	1	b	90	41.0	76.4		
				2	d	30				
				3	e	0				
				4	d	40				
				5	e	0				
				6	c	60				
				7	e	0				
				8	a	100				
				9	d	50				
				10	d	40				
		2	生活環境を整備します	1	a	90	85.0			
				2	b	80				
		3	調和ある土地利用を進めます	1	b	90	90.0			
		4	災害に備える施設・設備を整備 します	1	b	90	80.0			
				2	c	70				
				3	b	80				
		5	老人福祉・子育て支援施設の充 実を図ります	1			90.0			
				2	a	90				
				3	a	90				
		6	自然に親しむ公園を整備します	1	a	90	72.5			
				2	d	20				
				3	a	90				
				4	a	90				
		全体の実施度								69.0

# 沿革

## 1 座光寺のこと

座光寺は、縄文時代・弥生時代の遺跡の多いところでもあるが、古墳時代・奈良時代の遺跡には大きな特徴がある。古墳の数は75基以上あって、松尾・竜丘と共に古墳の密集地帯である。中でも、高岡1号古墳・畦地1号古墳・北本城古墳は、渡来人の手によって築造された飯田地域では数少ない渡来人系の古墳として注目されている。善光寺縁起で伝えられている本田善光は渡来人ではないかといわれている。古い時期の縁起によると、阿弥陀如来を伝えた人は、秦巨勢太夫はたのこせ だゆう わかまたは若麻績東人おみのあずまんびとと呼ばれ、渡来人にかかわりそうな名でもある。これらの渡来人の集団が、座光寺辺りを拠点にしていたわけで、高岡1号古墳の東側一帯に隣接する「伊那郡衛」いなくんがにかかわる人々かもしれない。

奈良時代の伊那郡は5つの郷に分かれている。その中の一つが「麻績郷」である。この範囲は、天龍川西側の飯田松川から片桐松川の間と推定されている。その中央辺りの座光寺に伊那郡衛があったので、座光寺では江戸時代の終わり頃から明治初年にかけて「麻績の里」と呼ばれたことがある。その証しの一つに麻績神社・麻績小校の名が残されている。

平安時代の「三代実録」に著された信濃定額五寺の一つ「寂光寺」じやくこうじは座光寺にあったと推定され、各所から古瓦が出土している。「じゃっこうじ」が転訛して「ざっこうじ」になったという説がある。これとは別に、阿弥陀如来がこの地を去った後、残された座の臼が光を放つという古説から「座光寺」と呼ばれたともいわれている。鎌倉時代に書かれた書物によると、本田善光は宇沼の里とか麻績の里の住人と書かれているので、座光寺辺りを麻績の里と呼んだ所以もある。

鎌倉時代にこの地に土着した神氏系みわしの座光寺氏によって支配され、北本城・南本城が築城され、現在なお原型に近い姿で残されている。座光寺の名が出てくるのは定かではないが、座光寺氏の出自からすれば鎌倉時代には「ざっこうじ」と呼ばれていたものと思われる。

天正3年、美濃岩村城の戦いで座光寺氏が没落してから、松岡氏の配下にあった座光寺は、松岡貞利から安堵状を受けた今牧八郎左衛門を中心にして、近世の座光寺村が成立している。この座光寺村は島田村に次ぐ大村で、江戸時代初期の肝煎役も2人、江戸時代中期の庄屋役は2人、後に4人による交代制がとられている。明治8年に、飯沼村ほか6カ村による上郷村となり、その後分離・合併が繰り返されて、明治22年に新制座光寺村が成立している。(今村善興氏 記)

## 2 明治以降の主な沿革

- 明治4年 飯沼村、座光寺村、牛牧村の3村が一管区となり、旧飯田領は飯田県となる。そして飯田県は筑摩県に編入される。
- 明治5年 如来寺を借りて筑摩県第32小校が開校。座光寺村内の組の数は23組 - 市場、唐沢、流田、五郎田上、五郎田下、下羽場上、下羽場下、中羽場南、中羽場中、中羽場北、欠野、田中、恒川、佐野、池田、古瀬、上野、古市場下、古市場中、古市場上、城、原、宮崎
- 明治6年 大小区制がしかれ座光寺村と飯沼村ほか4カ村は筑摩県第19大区2小区となる。筑摩県第32小校が麻績小校となる。戸数 - 297戸 人口 - 1,570人 (男性808人、女性762人)

- 明治8年 北原稲雄により麻績神社と命名され、麻績神社の祭典が行われる。座光村ほか6カ村合併し、第19大区2小区上郷村となる。
- 明治9年 筑摩県庁が焼失し筑摩県が廃県、長野県に合併。麻績学校が、上郷村7番島学校となる。
- 明治12年 大区小区制が廃止、郡制がしかれ上・下伊那郡となる。
- 明治14年 上黒田 - 村、別府 - 村、飯沼南条 - 村、座光寺 - 村の分村願書提出。認可され、黒田村、別府村、飯沼村、座光寺村となる。その時の座光寺村の戸数は309戸。
- 明治18年 県より連合役場更正の通達があり、4カ村が連合し、飯沼村に戸長役場を置く。
- 明治19年 4月1日より4カ村の4小校が合併。黒田支校として初等科を、別府支校として中等科を、座光寺は島学校改名して座光寺学校とし、本校中等科も置くこととなる。
- 明治21年 麻績神社の石の大鳥居建立。
- 明治22年 町村制が実施され、再々度座光寺村となり、新村座光寺村役場開庁。座光寺学校が座光寺尋常小学校となる。戸数 - 338戸
- 明治27年 高等科2年が併置許可され、座光寺尋常高等小学校となる。
- 明治40年 改正小学校令により尋常科6年、高等科2年となる。
- 明治43年 座光寺村 戸数 - 404戸 人口 - 2,260人
- 大正12年 伊那電が、元善光寺駅まで辰野駅から開通する。
- 昭和10年 農蚕の祖神を奉戴し、古賀比神社が成工し、遷宮される。
- 昭和16年 国民学校令により、座光寺国民学校と改称される。
- 昭和22年 新学制施行により、座光寺中学校が開校される。座光寺公民館が発足する。
- 昭和23年 座光寺農業協同組合が設立。
- 昭和24年 元善光寺平和殿に座光寺保育園が開設される。
- 昭和26年 座光寺、上郷の陵中学校を統合して、上郷村に組合立高陵中学校が開校。
- 昭和31年 1市7カ村が合併して、新飯田市が出来る。飯田市に座光寺村、松尾村、伊賀良村、山本村、三穂村、竜丘村、下久堅村が加わる。
- 昭和33年 上野に上野新町の団地ができ、また大堤に大堤団地が、昭和40年に出来る。
- 昭和35年 高岡の森が長野県の史跡指定にされる。
- 昭和36年 地区協議会を自治協議会に改称する。この年空前の大水害あり、田畑流出埋没82ha。これが36災と呼ばれている。龍西一貫水路通水。また大正14年にはじめた元善光寺の菊人形が再開される。
- 昭和41年 座光寺と喬木村を結ぶ阿島橋ができ、その時は有料橋であったが、昭和49年無料となる。
- 昭和50年 念願の中央自動車道が開通する。
- 昭和59年 座光寺小学校移転改築竣工。総工費922,359千円。その年国道153号線バイパスができる。
- 昭和60年 旧座光寺麻績学校校舎が長野県の県宝に指定される。
- 平成元年 長野県立飯田工業高校が高岡の地に移転開校する。
- 平成9年 旧座光寺麻績学校校舎の復元と麻績の館完成。
- 平成10年 竹田人形館の開館。
- 平成13年 広域農道万才線開通。
- 平成14年 麻績会館竣工とフルーツラインが開通。

- 平成16年 麻績の里振興委員会が平成11年発足したが、15年休止。その後、平成16年組織を改め再発足する。またフォレストコミュニティ事業として、南本城城址及び北本城城址の間伐等の整備が平成18年までに行われた。
- 平成17年 大堤保育園と旧座光寺保育園が合併して、城地区に新座光寺保育園が開設される。旧座光寺保育園には、つどいの広場が開設される。また、念願の稲荷坂線の改良工事が始まる。麻績の里振興委員会の事業として、半八重紅彼岸枝垂れ桜の名前を公募し、麻績の里舞台桜と命名する。
- 平成18年 元善光寺と麻績の里との間に遊歩道を造成し、地域の一体化を図る。又、公民館駐車場の拡張整備を図る。
- 平成19年 座光寺地域基本構想・基本計画策定。市の地域自治組織の導入に伴い、座光寺地区自治協議会をはじめ、各種の団体を統合して座光寺地域自治会が発足。座光寺地域基本構想・基本計画に則った地域自治の推進を開始。特別委員会「水辺の広場委員会」「高岡の森保存会」発足。市役所座光寺支所は座光寺自治振興センターとなった。
- 平成20年 特別委員会「麻績の里ふるさと応援倶楽部」発足。飯田工業高校・長姫高校の統合校が地域の願いに反し長姫高校の地に決まる。
- 平成21年 座光寺地域土地利用計画を策定。飯田市景観育成推進地区第1号に指定。土地利用計画策定委員会を土地利用計画運営員会に発展。
- 平成22年 座光寺夏祭り復活。特別委員会「歴史に学び地域をたずねる会」発足。これまでの地域づくりの各種取組が評価され、麻績の里振興委員会がムトス飯田賞を受賞。渋谷区との交流が始まり、表参道などに新しい化リンゴの苗を植樹。座光寺地域防災計画を他地区に先駆けて策定。
- 平成23年 JR東海が明らかにしたリニア中央新幹線の路線・駅のエリアに座光寺地域の大部分が含まれていることが判明。地域として対策を講じていくこととした。麻績の里舞台桜が市天然記念物に指定。
- 平成24年 リニア対策特別委員会を設置。

# 基本計画の見直し経過（平成23～24年度）

## 1 全体会など

- 23.11. 8 顧問会議（策定当時の関係者からの意見聴取）
- 23.11.11 第1回全体会議（委員構成、作業手順の検討）
- 23.12. 8 第2回全体会議（策定当時の思いの講義、作業手順の決定）
- 24. 4.21 第3回全体会議（部会検討の報告）
- 24. 5.21 第1回正副部会長会（部会検討精査、第1～2部会分）
- 24. 5.29 第2回正副部会長会（部会検討精査、第3～6部会分）
- 24. 5.31 座光寺小学校との打ち合わせ（検討内容への学校意見の聴取）
- 24. 7.25 顧問・正副部会長合同会議（見直し文章の検証）
- 24. 8. 7 役員会（合同会議の意見を元に修正）

## 2 部 会

### (1) 第1部会

- 23.11.11 第1回（正副部会長の選出）
- 23.12. 8 第2回（自由討議）
- 23.12.19 第3回（読み合わせ、前回策定者の話）
- 24. 1.20 第4回（聞き取り調査結果報告、第1節見直し）
- 24. 2. 7 第5回（第1節見直し）
- 24. 3.14 第6回（第1節見直し）
- 24. 6.21 第7回（正副部会長会指摘を受けての再検討）

### (2) 第2部会

- 23.11.11 第1回（正副部会長の選出）
- 24.12. 8 第2回（自由討議）
- 24. 1.12 第3回（取組方法の検討、基本構想学習）
- 24. 1.30 第4回（第2節見直し）
- 24. 2.13 第5回（第2節見直し）
- 24. 2.28 第6回（第2節見直し）
- 24. 3. 6 第7回（第2節見直し）
- 24. 3.23 第8回（第2節見直し）
- 24. 6.26 第9回（正副部会長会指摘を受けての再検討）

### (3) 第3部会

- 23.11.11 第1回（正副部会長の選出）
- 23.12. 8 第2回（自由討議）
- 23.12.18 第3回（自然・歴史・文化主要資産探索）

- 24. 1.17 第4回 (基本構想学習)
- 24. 2. 7 第5回 (第3節見直し)
- 24. 2.16 第6回 (第3節見直し)
- 24. 2.28 第7回 (第3節見直し)
- 24. 3. 8 第8回 (第3節見直し、役員による成文化作業)
- 24. 3.21 第9回 (第3節見直し、成文案検討)
- 24. 6.19 第10回 (正副部会長会指摘を受けての再検討)

#### (4) 第4部会

- 23.11.11 第1回 (正副部会長の選出)
- 23.12. 8 第2回 (自由討議)
- 24. 1.11 第3回 (基本構想学習)
- 24. 2.10 第4回 (第4節見直し、重点課題について)
- 24. 3.12 第5回 (第4節見直し)
- 24. 6.25 第6回 (正副部会長会指摘を受けての再検討)

#### (5) 第5部会

- 23.11.11 第1回 (正副部会長の選出)
- 23.12. 8 第2回 (自由討議)
- 24.12.20 第3回 (第5節見直し)
- 24. 1.17 第4回 (第5節見直し)
- 24. 2. 1 第5回 (第5節見直し)
- 24. 2.28 第6回 (第5節見直し)
- 24. 6.19 第7回 (正副部会長会指摘を受けての再検討)

#### (6) 第6部会

- 23.11.11 第1回 (正副部会長の選出)
- 23.12. 8 第2回 (自由討議)
- 23.12.13 第3回 (基本構想勉強会)
- 24. 1.11 第4回 (第6節見直し)
- 24. 1.18 第5回 (第6節見直し)
- 24. 2. 8 第6回 (第6節見直し、役員による成文化作業)
- 24. 2.22 第7回 (第6節見直し、成文案検討)
- 24. 6.25 第8回 (正副部会長会指摘を受けての再検討)

## 座光寺地域基本構想・基本計画見直し検討委員会名簿 (平成23～24年度)

役 職	氏 名	地 区	所 属 団 体
顧 問	湯 澤 啓 次	唐 沢	市議会議員
	長 沼 豊	原	農業委員
	横 前 泰 子	唐 沢	民生児童委員協議会長
	筒 井 誠 逸	中 市 場	商工会議所座光寺支部長
	小 島 稔	宮 崎	座光寺公民館長
	小 林 正 明	宮 崎	伊那谷自然友の会会長
	古 井 武 志	清 水	麻績の里ふるさと応援倶楽部会長
	本 多 秀 賢	南 市 場	元善光寺住職
委 員 長	湯 澤 英 範	唐 沢	自治会長
副 委 員 長	長 沼 春 雄	宮 崎	副自治会長
	田 口 博 人	大 堤	副自治会長
第 1 部 会 ( 正 )	牧 内 幸 雄	唐 沢	総務文教部
第 1 部 会 ( 副 )	工 藤 幸 一	宮 の 前	地区選出
	串 原 裕	下 羽 場	地区選出
	三 村 修	宮 崎	社会部
	佐々木 實	河 原	産業建設部
	今 牧 光 子	宮 の 前	地域振興会議
	松 下 三 國	宮 の 前	地域振興会議
	塩 澤 敏 宏	万 才	麻績の里振興委員会
	長谷川 智美	宮 崎	座光寺壮年団
	松 村 朗	万 才	座光寺壮年団
	上 村 英 莉 子		自治振興センター (23年度)
	木 村 喜 美 子		自治振興センター (24年度)
第 2 部 会 ( 正 )	今 村 作 衛	清 水	地区選出
第 2 部 会 ( 副 )	八丁地 卓夫	共 和	地区選出
	大 倉 通 夫	大 堤	地区選出
	浜 島 敏 彦	宮 の 前	総務文教部
	原 田 守 彦	下 羽 場	社会部
	常間地 喜章	原	産業建設部
	小 島 朝 夫	下 羽 場	水辺の広場委員会
	壬 生 隆	唐 沢	座光寺小学校PTA
	山 崎 直 子	大 堤	座光寺保育園保護者会
	高 木 友 美	中 市 場	座光寺保育園保護者会
	壬 生 尚 之	万 才	座光寺壮年団
	内 山 秀 治		自治振興センター
第 3 部 会 ( 正 )	石 田 文 夫	北 市 場	地区選出
第 3 部 会 ( 副 )	三 村 博 人	宮 崎	地区選出
	湯 澤 英 範	唐 沢	自治会長
	山 岸 清	恒 川	総務文教部

第3部会	北原 清	唐 沢	社会部
	小野田 勝 男	上野新町	産業建設部
	木 下 秀 司	高 岡	高岡の森保存会
	正 木 利 幸	清 水	歴史に学び地域をたずねる会
	勝 野 久美子	駅 前	座光寺小学校PTA
	佐々木 まゆみ	高 岡	座光寺小学校PTA
	松 江 良 文		自治振興センター (23年度)
	飯 島 初 美		自治振興センター (24年度)
第4部会 (正)	横 田 隆 司	欠 野	地区選出
第4部会 (副)	宮 澤 節 美	万 才	地区選出
	尾 畑 明	北 市 場	総務文教部
	櫛 原 美智子	万 才	社会部
	棚 田 勇	共 和	産業建設部
	篠 田 香	原	地域振興会議
	熊 谷 八千代	大 堤 東	地域振興会議
	清 水 明	中 河 原	健康福祉委員会
	櫛 原 美智子	中 羽 場	健康福祉委員会
	久保田 美恵子	恒 川	健康福祉委員会
	塩 澤 奈 巳		自治振興センター
第5部会 (正)	原 田 寿	中 河 原	産業建設部
第5部会 (副)	櫛 原 文 夫	中 羽 場	総務文教部
	熊 谷 博 人	唐 沢	地区選出
	大 沢 義 信	欠 野	地区選出
	宮 澤 俊 子	万 才	地区選出
	長 沼 春 雄	宮 崎	副自治会長
	林 晃	中 市 場	社会部
	筒 井 誠 逸	中 市 場	商工会議所座光寺支部
	櫛 原 綱 由	唐 沢	商工会議所座光寺支部
	竹 内 昇	原	原地区農業後継者クラブ
	小 林 謙 一	大 堤 東	原地区農業後継者クラブ
	松 江 秀 則		自治振興センター
第6部会 (正)	佐 藤 英 男	高 岡	地区選出
第6部会 (副)	北 原 三 三	河 原	地区選出
	岡 島 正 伸	原	地区選出
	田 口 博 人	大 堤	副自治会長
	日 吉 次 平	大 堤 東	社会部
	伊 東 ■	高 岡	産業建設部
	佐々木 克 仁	河 原	消防団第4分団
	代 田 勉	原	消防団第4分団
	代 田 学	原	原地区農業後継者クラブ
	篠 田 耕 一	原	原地区農業後継者クラブ
	松 江 良 文		自治振興センター